

相手を「読解」する力

2011年6月、文部科学省のグローバル人材育成推進会議は「グローバル人材」に必要な要素を次のように定義した。

【要素Ⅰ】語学力・コミュニケーション能力【要素Ⅱ】主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感【要素Ⅲ】異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

確かにこれらは大切ではあるが、グローバル人材となるためには、そのすべてが必要であるとは言い切れない。これらの要素のいくつかが土台と

井川 隆成
中萬学院 指導事業部長
大学受験指導事業部長

グローバル人材とは

なったり複合的に絡み合ったりして、知識や教養、高い専門性、さらには倫理観、課題解決力、チームを率いるためのリーダーシップまたはリーダーをもち立てていく力などが求められるのが実情だ。

試みに、海外のビジネス拠点で働く外資系企業の日本人複数に「仕事を進める上で、何が重要か」というテーマで話を聞いた。その結果をまとめると次のようになる。

①語学として最低限の英語力と、英語を道具としてコミュニケーション（交流、意思疎通）する力、ディベート（討論）し、意見を提示する力は不可欠である。

②ただ単にコミュニケーションといっても一様ではなく、相手によってその方法を考えねばならない。相手を知らず、受容して理解する。そして

相手が言いたいことを「読解」していく。一概には言えないが、例えば、ダイレクトコミュニケーションは、まず始めに目的や趣旨を明確に伝えることが肝心だ。しかし中国人やインド人と一緒に働くときは、実行段階で丁寧にフォローする（補足すること）を心がける。なぜならば計画の合意形成は早い

が、その後の過程で進むべき方向性にずれが多く出てくるからだ。日本では方針合意には多くの時間を費やすが、一度決まったことはほぼ計画通りに進む。まさに真逆である。

③さらに笑いをもたらずジョークはコミュニケーションを大きく助ける。ただし品の悪いもの、信条や宗教関連の話題を避けることは当然だ。等々。

実験に裏打ちされた言葉は重い。付け加えるならダイバーシティ（多様性）への適応力の重要さも忘れてはならないだろう。



ホントがにやー太

「前向き」はいついけねば...

ダイバーシティと聞いて「ホントかにやー太」はガンダムが立つお台場の商業施設を思い浮かべた。こめんにや。試しに文部科学省のホームページで検索かけたら、確かに多様なことなただけど、「多

様な人材を生かす」という経営戦略の下、競争力を付けるためにいろいろな面で女性の参加を増やそう。という文脈が目立つようにや。前向きに生きるのうにや。勝利至上主義は動弁してほしいにや。そこを大切にするのは結構難しい気がするよ。

《追伸》4月につぶやいた、教科並び順の話。理由までは分からなかったけど、確かに入試にリスニングが導入された1996年度入試で、それまで最後に行っていた英語を最初の時間に移していた。ある人いわく「気をつかう作業は、早めに済ませたいものですよね」。説得力あるにや。